

英語科学習指導案

日時 平成28年7月25日(月) 1校時

児童 4年生

授業者

場所

1 単元名 「注文しよう」

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、ファストフード店で注文をする際の“For here or to go?” “～ dollars.” “～, right?”などの店員が話す表現と、“Large please.”などのお客が話す表現を扱う。これらの表現を繰り返し聞いたり、言ったりする様々な活動を通して身に付け、店員とお客の両方の立場で食べ物や飲み物を注文したり尋ねたりする活動を通して進んで表現できるようにすることを目指している。

単元の序盤は、新たな会話表現であるファストフード店で注文する際の店員とお客がやりとりをする場面の表現と出会い、それらを身に付けていくための活動を行う。買い物をする際に注文をしたり尋ねたりする表現は、相手と一層丁寧にやりとりすることが可能となる会話表現であり、聞く、まねる、言う活動の際には、友達同士でコミュニケーションを図る際の態度を大切にしながら身に付けていくことができる。単元の終盤では、店員とお客の両方の立場になって注文したり尋ねたりする活動に取り組んでいく。メニュー表を見ながら商品と代金を正確にやりとりするために、自然と相手の会話表現に応じて店員とお客の両方が既習の表現と新出の表現を活用しながら聞き返したり、確認したりして注文をすることとなる。また、メニュー表の内容を変えてやりとりをする際、多数の商品の中から選んで買い物をするため、やりとりの回数が増えたり、表現の幅が広がったりし、実生活のコミュニケーションに近いやりとりをすることができる単元である。

(2) 児童観

省略

3 単元目標

ゲームなどの様々な活動を通して、ファストフード店で注文をする際の“For here or to go?” “～, right?”などの店員が話す表現や、“Large please.”などのお客が話す表現を身に付けたり、店員とお客になってそれらの表現を使い、確認し合いながら積極的に買い物をしたりすることができる。

4 評価規準及び道徳的学び

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションを 支える技能	言語や文化に関する気付き	道徳的学び
ア 店員が話す会話表現やお客が話す会話表現を聞いて反応したり、発音をまねようとしていたりしている。 イ 買い物をする時の会話表現を使って、進んで友達に表現しようとしている。 ウ 相手の顔を見たり、商品や値段を確認したり、相槌を打ったりするなどして、丁寧に買い物のやりとりをしようとしている。	ア For here or to go? “Large please.”などの店員とお客の会話表現をやりとりの中で言うことができる。 イ 金額を聞いて、それに応じた代金を選んだり書いたり支払ったりすることができる。 ウ 店員やお客となり、買い物をする時の会話表現を使って、確認しながらやりとりをすることができる。	注文をする場面との出会いを通して、日本語と英語のお金の言い方の違いや、新たに学ぶ会話表現に気付いている。	B 「礼儀」 お客と店員として礼儀正しくやりとりを行ったり、友達が表現している様子を最後まで見聞きしている。

5 単元の指導計画

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> “For here or to go?” “～ dollars.” “～, right?”などの店員が話す表現と，“Large please.”などのお客が話す表現に何度も出会い、意味を予想したり、単元で新たに学ぶ会話表現に気付いたりする。 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">注文をする時の言い方を確かめよう！</div> <ul style="list-style-type: none"> 聞く、まねる、言う活動を通して、単語や会話表現を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画により新出の会話表現に場面を変えて何度も出合わせることによって、新たに学ぶ会話表現に気付き、表現の意味を予想したり、使う場面を実生活と結びつけて想像させたりしていく。 「聞く、まねる、言う」の順に活動を構成し、自分の持ち物の置く場所を実際に動かしたりしながら確認できるようにする。 	<p>気</p> <p>関ア</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 聞く、まねる、言う活動を通して、単語や会話表現の復習をする。 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">注文をする時の言い方を言えるようになるよう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ゲームなどの様々な活動で友達とやりとりをしながら注文したり、確認したりする会話表現を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で確認しながら苦手に感じる表現を重点的に確認するようにする。 活動では店員とお客の両方を経験できるようにして注文する際の会話表現を身に付けていくようにする。 	<p>関ア</p> <p>技ア</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 聞く、まねる、言う活動を通して、単語や会話表現の復習をする。 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">お金の言い方を言えるようになるよう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ゲームなどの様々な活動で友達とやりとりをしながら代金を聞いたり答えたりする会話表現を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で確認しながら苦手に感じる表現を重点的に確認するようにする。 活動では店員とお客の両方を経験できるようにして代金を払う際の会話表現を身に付けていくようにする。 	<p>関イ</p> <p>技イ</p>
4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 聞く、まねる、言う活動を通して、単語や会話表現の復習をする。 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">おつかいできるかな！？ タネドナルドで買い物をしよう！</div> <ul style="list-style-type: none"> 店員とお客に分かれて買い物をする。 商品の種類や値段が多様化した2枚目のメニューから選んで購入する。 	<ul style="list-style-type: none"> テンポよく確認し、活動時間を十分に確保できるようにする。 動画でデモンストレーションを見てやりとりの仕方や目的（お金や商品を間違えないように確かめながら買い物をすること）を把握し、課題に取り組めるようにする。 1枚目のメニューで確認をしながらやりとりを丁寧に行っているペア（聞き返したり、相手を見て話したり、笑顔で対応したりするなど）の発表により、コミュニケーションを図る際の態度を価値付ける。 メニューの商品が多様化することによって、正しく買うために新出の表現と既習の表現を組み合わせることで店員とお客が商品とお金を一層確認し、注文するように思考を促す。 	<p>関ウ</p> <p>技ウ</p>

6 小中連携の視点

	小学校4学年	中学校2学年
目指す子供の姿	様々な活動を通して身に付けていた会話表現を使って、ファストフード店の店員とお客の両方の立場になり、進んで注文のやりとりをする姿	地図や資料などから情報を読み取り、場所の情報や行き方などを詳しく相手に伝えている姿
手立ての視点	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で活用されている新出の会話表現との出合いの工夫 会話表現を身に付けていくための聞く・真似る・言う活動構成の工夫 身に付いてきた会話表現を用いて、友達に伝える場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 相手、目的、場面を意識した学習課題設定の工夫 適切に情報を伝えるために、伝えるべき情報を整理させる活動の工夫 即興で表現するために思考を働かせる場の設定

7 研究とのかかわり

単 元 の 序 盤	<p>I 状況的興味の喚起・維持を促すために 【会話表現との出会いの工夫】</p> <p>“For here or to go?” “～ dollars.” “～, right?”などの店員が話す会話表現と、“Large please.”などのお客が話す会話表現に何度も出合わせることで、以下の気付きを促すようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“For here or to go?”がここで食べるか持ち帰るかを尋ねる表現であること、“～ dollars.”が～円になること、“Large please.”が大きなサイズを頼む表現であることなど。 ・本単元で新たに学ぶ表現はファストフード店で注文する時の店員とお客がやりとりをする際の会話表現であること。 														
	<p>①会話表現の意味を予想したり、その内容に興味を持ったりし、新たに学ぶ表現に気付く子供</p>														
単 元 の 中 盤	<p>II 個人的興味の出現を促すために 【会話表現を身に付けていくための活動の工夫】</p> <p>聞く活動、まねる活動、言う活動（インプット→アウトプット）の順になるように活動構成を工夫し、十分に会話表現に触れながら身に付けていくようにする。その際、比較しながらよく聞く、そっくりまねる、リズムにのって言う、思い出して言う、選択して言う、単語で言うだけではなく徐々にチャンクで言うなども大切な要素である。また、店員とお客の会話表現であることから、友達とペアで行う様々な活動を通して、一人一人が身に付けていけるようにする。それぞれの活動では教師のフィードバックを挟んだり、不安に感じている表現を全体で確認したりし、児童ができるようになったことに自信を持って進んで伝えられるようにする。以下に具体的な活動例を示す。</p> <table border="1"> <tr> <td>聞く活動</td> <td>何を買ったでしょう？ ゲーム</td> <td>レベル①cokeなどの単語名を聞く。レベル②色や材料・状態などのヒントを聞く。聞こえた物を選んでそれを示す絵に○をつける。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>How much?ゲーム</td> <td>聞こえたお金がいくらであったかを数字で紙に書く。</td> </tr> <tr> <td>まねる活動</td> <td>まねまねゲーム</td> <td>1人が言った新たに学ぶ会話表現を聞き、そのものまねを全員でする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">言う活動</td> <td>チャンク</td> <td>食べ物や飲み物などの単語や、“For here or to go?”などの会話表現を速く変えたり、音の大きさを変えたりして言う。また、慣れた頃合いを見て、子供だけで言ったり、日本語を聞いて英語に言い換えたりする。</td> </tr> <tr> <td>How many times?ゲーム</td> <td>ペアで簡単な注文のやりとりや代金のやりとりを行う。</td> </tr> </table>	聞く活動	何を買ったでしょう？ ゲーム	レベル①cokeなどの単語名を聞く。レベル②色や材料・状態などのヒントを聞く。聞こえた物を選んでそれを示す絵に○をつける。		How much?ゲーム	聞こえたお金がいくらであったかを数字で紙に書く。	まねる活動	まねまねゲーム	1人が言った新たに学ぶ会話表現を聞き、そのものまねを全員でする。	言う活動	チャンク	食べ物や飲み物などの単語や、“For here or to go?”などの会話表現を速く変えたり、音の大きさを変えたりして言う。また、慣れた頃合いを見て、子供だけで言ったり、日本語を聞いて英語に言い換えたりする。	How many times?ゲーム	ペアで簡単な注文のやりとりや代金のやりとりを行う。
	聞く活動	何を買ったでしょう？ ゲーム	レベル①cokeなどの単語名を聞く。レベル②色や材料・状態などのヒントを聞く。聞こえた物を選んでそれを示す絵に○をつける。												
	How much?ゲーム	聞こえたお金がいくらであったかを数字で紙に書く。													
まねる活動	まねまねゲーム	1人が言った新たに学ぶ会話表現を聞き、そのものまねを全員でする。													
言う活動	チャンク	食べ物や飲み物などの単語や、“For here or to go?”などの会話表現を速く変えたり、音の大きさを変えたりして言う。また、慣れた頃合いを見て、子供だけで言ったり、日本語を聞いて英語に言い換えたりする。													
	How many times?ゲーム	ペアで簡単な注文のやりとりや代金のやりとりを行う。													
	<p>②新たに学んだ会話表現を進んで伝える子供</p>														
単 元 の 終 盤	<p>III 発達した個人的興味の出現を促すために 【新たに学んだ会話表現を用いて伝える場の設定】</p> <p>「おつかいできるかな!? タネドナルドで買い物しよう!」という伝える場を設定する。メニュー表を使って店員とお客に分かれて1対1で買い物をする活動を行う。お客は10ドル以内で買える物を店員に注文し支払い、店員はお客の注文を聞いて商品のカードを渡したりお金を伝え受け取ったりする活動を行う。これらの活動を1枚目と2枚目のメニュー表の内容を変えて2回行う（1枚目のメニュー表は商品の料金が全て10ドル、2枚目はサイズ・値段などが異なる食べ物や飲み物が複数記載されている）ことによって、お客は「正しく注文するために商品やお金を確かめなければならない」、店員は「お客が望んだ商品をきちんと渡すために注文を最後まで聞いて商品を確認しなければならない」という壁を与える。このように、正確に買い物をするという設定により、お客と店員の両方に壁が設定できると考える。児童にとってこれらが少し頑張れば乗り越えられる丁度良いハードルであり、進んでやってみたく感じる場の設定であると考えられる。</p>														
	<p>III-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫 【壁を乗り越える思考の焦点化】</p> <p>本単元では■で設定した壁を乗り越えるために、伝える場がどのような状態であるかを再認識させることが大切である。この思考の流れを促すために、スムーズにやりとりができるようになった後、2枚目のメニュー表を提示する。2枚目のメニュー表では、商品の種類が多様化し、1枚目と同様の方法では正しく買うために注文することが難しくなることを自覚させるようにする。その際、買いたい物を注文するために、商品や値段を確認してやりとりすることに焦点化を図るため、「自分の買いたい物が上手く伝わったか」「なぜできたか」などと問う。そうすることで、買い物のやりとりをする中で、①店員がお客の望む商品を聞き出すために既習の表現を使って質問しようとする②お客が自分がほしい商品を既習の表現を使って具体的に注文しようとする③店員とお客の両方が既習の表現を使って商品やお金を確かめようとする、の3つのパターンの思考が生まれていくようにする。ペアで役割を変えてお客と店員を経験したり、やりとりをするペアを変えて複数回行うことによって、①～③の多様な思考を引き出していくことができると考える。また、2枚目のメニューは、商品の値段も異なることから、「どんな商品を買いたいか」「複数注文をしてきたら支払いはどうするか」などと問うことにより、お客は10ドル以内で複数の商品を買おうという思いを持ち、店員はお客が何をいくつ注文するのか、よく聞いて商品を確認めたり、合計の代金を計算して英語で伝えていくことになる。このような思考が働くことによって、必然的にやりとりの回数が増え、実際のコミュニケーションの場面に近い活動となり、できたことを実感していく姿につながっていくと考える。</p>														
	<p>③できたことを実感し、進んで会話する子供</p>														

8 本時について（4/4時間目）

（1）本時の目標

ファストフード店の店員やお客となり、注文をしたり尋ねたりするために必要な既習の表現と“For here or to go?” “Large please.”などの新出の表現を使って、商品や値段を丁寧に確認し、進んで伝えることができる。

（2）本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 ■自己肯定感	■評価 個に応じた指導 (△発展的 ▲ 補充的)
○前時までに学習したお客と店員の会話表現や商品の単語を復習する。 For here or to go? ～, right? Large please. など ・ここで食べるか持ち帰るかの言い方は For here or to go?だったね。 ・確認する時には～, right? って聞き返せばいいんだね。	□前時までに学習した表現を復習し、自信を持って本時の活動に臨めるようにする。	▲不安な表現がある児童は、その表現をみんなと一緒に声を出して確認するよう促す。

○課題を把握し、デモンストレーションを見てルールを確認し、学習に見通しを持つ。

おつかいできるかな！？タネドナルドで買い物しよう！

【進め方】

- ・ファストフード店の店員とお客に分かれて1対1で買い物をやりとりを行う。
- ・お客は預かった10ドルでお金や商品を間違えないように自分のほしい物をメニューから選んで買う。
- ・店員も間違えないようにお客の注文を最後まで聞いて行う。
- ・やりとりが終わったら役割を交代したり、相手を変えたりして行う。

- ・店員になったり、お客になったりして伝えるんだね。
- ・自分の好きな物を選べるんだね。
- ・間違えた物を渡さないように最後まで聞いたり確かめたりしないとね。

○1枚目（小数の商品で全て同じ価格）のメニュー表を用いて活動に取り組む。

- ・私はこれを注文したいな。確か coke だね！

〈会話例〉	店員	お客
	Hi! Good morning.	Good morning.
	For here or to go?	For here.
	What do you want?	One coke, please.
	One coke, right?	Yes. That's all.
	OK. \$10, please.	Here you are. (お金を渡す)
	Thank you. (お金を受け取る) Here you are. (商品を渡す)	Thank you. (商品を受け取る)

- ・お客さんが注文したことを聞き返して確認しなきゃね。
- ・自分のほしいもの正しく注文できて買ってうれしいな。
- ・最後までしっかりと聞けたし、確認もして商品を間違えなかったよ。

○2枚目（多数の商品や異なる価格）のメニュー表を用いての活動を試しに行い、買い物を正確に行うためのやりとりについて考える。

- ・種類が増えて注文するのが大変だなあ。
- ・どうやって注文したり、受けたりしたらいいかな。
- ・サイズが違うもの、数が違うもの…を言ったり尋ねたりするといいいね。
- ・前に習った What size?や How many?…が使えそう！
- ・お客が自分から伝えることもできるね。
- ・間違ると店員やお客の両方が困るから、両方が間違えないように確認するといいいんじゃないかな。
- ・代金と商品を正しく伝えられるように最後まで聞かないとね。
- ・自分のほしい物が合っているか確認してお金を渡さないといけないね。

○共有した気付きを生かし、2枚目のメニュー表を使って活動に取り組む。

〈会話例1〉店員が既習の表現を使う	
店員	お客
Hi! Good morning.	Good morning.
For here or to go?	For here.
What do you want?	Coke, please.
How many?	Two, please.
OK. Large or small?	Large, please.
OK. Large, right?	Yes. That's all.
OK. \$6, please.	OK. Here you are. (お金を渡す)
Thank you. (お金を受け取る)	
Here you are. (商品を渡す)	Thank you. (商品を受け取る)

〈会話例2〉お客が既習の表現を使う	
店員	お客
Hi! Good morning.	Good morning.
For here or to go?	For here.
What do you want?	One large coke and one tomato hamburger, please.
OK. One large coke and one tomato hamburger, right?	Yes. That's all.
OK. \$7, please.	\$7? OK. 1.2.3.4...\$7. Here you are. (お金を渡す)
Thank you. (お金を受け取る)	
Here you are. (商品を渡す)	Thank you. (商品を受け取る)

- ・coke はサイズも聞かないといけないね。
- ・one hamburger っていうだけじゃなくて、one tomato hamburger っていう注文すると伝わりやすいね。
- ・今まで習ったことをたくさん使ったり、確かめながらやりとりをすると正しく伝えられるんだね！

○本時の学習や単元の学習を振り返る。

- ・自分がほしいものが相手に伝わって注文できて嬉しいな。
- ・買い物をする時の表現と今まで習ったことを言えるようになったよ。
- ・確認し合いながらやりとりをすると、間違えないで買い物ができたよ。
- ・食べ物や飲み物以外でも買い物をしてみたいな。

□映像で活動例を示すことにより、短時間で活動の見通しを持てるようにする。

□やりとりが丁寧で確認をしっかりとしているペアを見本として発表させ、コミュニケーションを図る際の態度を価値付けする。

□1枚目のメニュー表を用いた活動と2枚目のメニュー表を用いた試しの活動を通して、正しく買い物をするためには、商品や値段を確かめ合うことや、商品をきちんと渡すために注文を最後まで聞いて確かめることの必要性を感じられるようにする。III

□1枚目の絵と比べて「自分の買いたいものを上手く伝えられたか」「なぜできたのか」などと問うことを通して、商品や値段を正しく買い物をするためには、既習を組み合わせる使う必要性に気付かせるようにする。III- (1)

□「どんな商品を買いたいか」「支払いはどうするか」などと問うことにより、お客は「複数の商品を買おう」という思考が、店員は「お客の複数の注文に対応できるように、よく聞いて、正しく代金を英語で伝えよう」という思考が働くようにする。III- (1)

〈会話例3〉お客と店員が既習の表現を使う	
店員	お客
Hi! Good morning.	Good morning.
For here or to go?	To go.
What do you want?	Two coke, please.
Two coke, right?	Yes.
What size (do you want)?	Large, please.
OK. Large, right?	Yes. And one potato salad, please.
OK. One potato salad, right?	Yes. That's all.
OK. 9\$, please.	\$9? OK. 1.2.3.4...\$9. Here you are. (お金を渡す)
Thank you. (お金を受け取る)	
Here you are. (商品を渡す)	Thank you. (商品を受け取る)

□必要に応じて、商品をすぐに絞れないような注文の仕方を提示して、既習の表現の活用に広がりをもたせよう。
□注文する商品を確認するために、丁寧に確認をしたこと、既習の表現を使ってその場に応じたやりとりができたこと、単元を通じて言えるようになった会話表現を価値付けし、今後の学習への意欲を高める。

【関ウ～観察・発言・ワークシート】

△やりとりがスムーズに行うことができているペアには、コミュニケーションを図る際の態度を意識してやりとりをするように促す。

【関ウ・技ウ～観察・発言・ワークシート】

▲確かめる表現や尋ねるための単語や表現を忘れてしまった児童は、一緒に確認する。

▲お客さんがほしい物を絞るために、どんな質問をしたらよいかわからない児童には一緒にやりとりを進めて考えるようにする。

△既習の表現を進んで使ってやりとりをしている児童には、コミュニケーションを図る態度も意識するように伝える。